令和6年度 自己評価表（中間評価）

3鳥取県立倉吉西高等学校

教育目標	校訓である「立志」の精神に基づき、自らの志（使命感）を明確に持ち、将来、地域貢献及び社会貢献のできる心豊かな人材を育成する。
中長期目標	1 道徳教育の充実 2 キャリア教育の充実 3 高い志の実現に向けた、学ぶ意欲の向上

今年度の重点目標	1 人間性や社会性の向上 2 チャレンジグループ活動の充実による自己探究型キャリア教育の推進 3 学びの深化と主体的学びの構築 4 情報発信の更なる充実 5 働き方改革の推進
----------	---

評価基準 A:十分達成 [100%] B:概ね達成 [80%程度] C:変化の兆し [60%程度] D:まだ不十分 [40%程度] E:目標・方策の見直し [30%以下]

年度当初					評価結果(9月)		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
人間性や社会性の向上	<ul style="list-style-type: none"> 個人や集団の間に存在する様々な「違い」の理解度を深める。 「人との関わり」や「出会い」を大切にしていこうと、豊かな心を育成し、主体性を培う。 	<ul style="list-style-type: none"> 人権 LHR や講演会を通じて人権意識が高まり、相手の立場を考えて行動する生徒が増えている。 生徒会活動に積極的に参加し、主体的に活動できる生徒は昨年度 76.4%であり、教員からの働きかけが引き続き必要な状態にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 価値観や考え方の違いを受容し、周囲に配慮した行動ができ、人の思いに共感する力がさらに伸びている。 生徒会活動やボランティア活動に積極的に参加している。組織的な活動への参画を通じ、自分の在り方、豊かな人間関係を学んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 人権講演会の実施や各教科の授業・特別活動を通じ、人権を尊重し立場の違う人たちへの理解を深める。 生徒会活動を通して、他者と共に試行錯誤しながら自他ともに大切にすることを学ぶ。また、挨拶運動を行い挨拶を通じた関係作りを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 人権 LHR、講演会等を通じて人権意識が高まっている。また西高祭、挨拶運動などの生徒会活動を通じて社会性が高まり、他者を尊重する精神が育成されている。 今年前期のボランティア参加率は S1 は 70%、S2 が 30%、S3 は 7%で、特に全員参加が必須のステージ1 は参加率が高い。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 11 月実施の人権 LHR や講演会をさらに改善し実施する。また、全教科全領域で相手を尊重する態度の育成に努める。また、生徒会執行部を中心とした活動を計画的に実施する。 引き続き掲示物や電子メールを使ったボランティア案内や、担任からの情報提供を行う。
チャレンジグループ活動の充実によるキャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 地域を支え貢献に資する人材を育成する高校として、地元自治体や地元大学等と連携しながら、「ふるさとキャリア教育」を推進する。 様々な活動に自主的、実践的に取り組み、課題を解決することを通じて自己実現を図ろうとする態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の大学、行政機関等との連携が徐々に進みつつあるが、連携の場がまだ十分ではない。また、生徒の探究活動では、現地調査やインタビューなど、直接地域とつながる活動が十分ではない。 昨年度は「3年間を見通した進路学習計画と、探究を通じて学びの視野が広がった」生徒が 88.8%にのぼり、主体的に進路を開拓しようとする姿が形成されつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域課題に対する理解が深まり、解決に向けた取組を積極的に探究しようとする生徒が増加している。 探究活動と進路学習が有機的に結びつくことで、自らの視野や選択肢が広がり、将来の学びや自己実現について考える生徒が増加している。 校外でのイベントや取組に積極的に参加する生徒が増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地元自治体や大学との連携を強化して直接生徒が地元の方々と繋がり、地域理解を深める機会を増やす。 3年間を見通した進路学習計画や探究活動計画に沿って、計画的に講演会や大学・企業訪問などを実施する。 校外で行われるイベントの情報提供と参加の働きかけを積極的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> S2 の探究活動では倉吉市・三朝町・県立美術館と連携した活動が進んでいる。また、現地調査や地域でのボランティア活動、地域イベントに参加する生徒も増加傾向にある。 夏休みに S2 生徒のほぼ全員がオープンキャンパスに参加し、S1 の生徒は Web で大学に関する動画視聴を行い、大学での研究に関する視野が広がった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 教職員と自治体関係機関との連携を密にし、学校と地域とのパイプの維持・拡大に努める。 生徒の地域での活動を促進するために、地域の大学・短大の先生方に直接指導していただき調査対象・内容を明確化する。 大学進路意識の高揚を、学習意欲の形成と主体的な学習習慣の確立につなげていく。
学びの深化と主体的学びの構築	<ul style="list-style-type: none"> 図書館を積極的に活用し、課題解決能力の育成に向けた学びを深める。 ICT の効果的な活用をさらに進め、生徒の主体的学びにつなげる授業を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年の図書の一人あたりの貸出冊数が 6.47 冊でやや増加傾向にあるが、授業や探究学習で図書館を活用した学びの機会が少ない。 模試の振り返りや情報収集等に ICT 活用が進み、生徒の主体的な学びへの意識が向上しつつある。昨年度は 88.2%の生徒が「授業はわかりやすく充実している」と回答している。 各教科で公開授業を実施し、ICT を活用した授業の技術を教科間で共有することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書館の貸し出し冊数が増加し、書籍や資料等を活用して課題解決に取り組む生徒が増えている。 生徒アンケートで「本校の授業はわかりやすく充実していると感じる」という回答が 9 割を超えている。 授業や探究活動で Chromebook の利用が進み、個別の課題に主体的に取り組む生徒が増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画的な朝読書を通じて、本に触れる機会と、直接図書館に直接足を運ぶ機会を増やす。 クラッシーやマナビジョンのポートフォリオ機能等を活用することで、生徒自身の学びの自走につなげる。 今年も各教科が校内研究授業を行い、活用方法の共有や研修を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝読書の年間計画を作成・運用する中で、前期の貸出冊数が昨年度比 1.8 倍となった。またビブリオバトルや読書体験記を通じて、読書活動が充実した。 模試の復習や振り返りにマナビジョンやクラッシーのポートフォリオ機能を活用する生徒は、現段階では一部にとどまる。 前期のアンケートでは 91.7%の生徒が「授業はわかりやすく充実している」と回答しており、目標を達成している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き朝読書を継続する。 クラッシーの効果的な活用については議論が進んでおらず、今後研究を行う必要がある。 授業アンケートを個人の授業評価に見直し、各教科で改善点を話し合い共有する。また、今年度も ICT を活用した公開授業を全教科で実施する。ICT 支援員と Chrombook の効果的な利用について検討していく。
情報発信の更なる充実	<ul style="list-style-type: none"> ホームページやインスタグラム等を活用し、生徒の活動の様子を積極的に発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページやインスタグラムを通じた情報発信が十分ではない。 PTA 広報誌の作成は、保護者と連携し工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページや広報誌の内容が充実し、校内の教育活動や部活動の情報が適切に発信されている。 ホームページが月間 10 件以上更新されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページやインスタグラム、広報紙等の役割、特徴を整理し、役割に応じた情報発信に努める。 ホームページの更新は事前に担当を割り振り、全職員で更新していく。 	<ul style="list-style-type: none"> PTA 広報誌の作成について、発行がやや遅れたが、Googleforms で保護者の意見を集約したり、写真選びに参画してもらうなど保護者目線の紙面構成ができた。 前期のホームページ更新状況は 1 月あたり約 8.8 件で、年度当初の目標に近づいている。 	C	<ul style="list-style-type: none"> PTA 広報誌の発行については、複数の教員で締切や進行状況の確認を行う。 毎月の行事予定表に情報発信の担当欄を設け、引き続き、分掌や部活動などと協力し、全職員でホームページを更新していく。

働き方改革の推進	<p>○教職員の心身の健康を保つための環境整備を行い、実現に向けた改革を推進する。</p> <p>○ICTを活用して業務の削減を図る。</p>	<p>○職場環境の整備や業務改善は進んでいるが、まだ作業効率が悪い業務慣行や、整備が必要な施設などが残っている。</p> <p>○業務のICT化が進み、業務効率の向上や時間外業務削減につながっている。</p>	<p>○職場環境がさらに改善され、業務の効率化と施設・設備の整備が進んでいる。</p> <p>○業務のICT化がさらに進んでいるだけでなく、職員がストレスなくICT機器を使いこなしている。</p>	<p>○衛生委員会で意見を聞くとともに、普段から教職員間のコミュニケーションを促進し、問題点を顕在化し、改善策を検討していく。</p> <p>○ICT推進チームやICT支援員に依存するだけでなく、教員間で気軽に教えあえる環境を作る。</p>	<p>○外部からの文書を、紙で回覧するのを止め、校内LAN上でデータベース化した。また職員会議の資料をGoogleドライブ上で共有するようになった。</p> <p>○教員同士で分からない操作について教えあう状況はできている。</p>	B	<p>○情報のデータベース化は進んだが、アクセス頻度が低い職員もいるため、情報共有を徹底する仕組み作りが必要である。</p> <p>○平素からの教員間のコミュニケーションの促進を図っていく。</p>
----------	---	--	--	--	--	---	---